

2020年 秋季年会

年会プログラム

於 弘前大学 (オンライン開催)

2020年9月8日(火) ~ 9月10日(木)

日本天文学会

日本天文学会 2020年 秋季年会プログラム

期 日 2020年9月8日(火)～9月10日(木)
 場 所 弘前大学文京町キャンパス(オンライン開催)
 電 話 090-4387-6893(学会事務局) <使用期間 2020年9月7日(月)～9月10日(木)>
 E-Mail nenkai-committee@asj.or.jp(年会実行委員会)

月日	会場	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月7日 (月)						記者会見			理事会		
9月8日 (火)	A	S. 活動銀河核	昼 休 み		Y. 教育・広報・他	天文教育 フォーラム		特別 セッション (国立天文台 -現状と今後- そのII)			
	B										
	C	P3. 惑星系			P3. 惑星系						
	D	V3. 観測機器(X線・γ線)			V3. 観測機器(X線・γ線)						
	E	X. 銀河形成			X. 銀河形成						
	F	M. 太陽			M. 太陽						
	G	P1. 星形成			P1. 星形成						
	H	N. 恒星進化			N. 恒星進化						
9月9日 (水)	A	U. 宇宙論	昼 休 み (代議員総会)		U. 宇宙論	会員 全体集会		受賞記念講演 第一部			
	B	Z1. 超巨大BH			Z1. 超巨大BH						
	C	W. コンパクト天体			W. コンパクト天体						
	D	V3. 観測機器(X線・γ線)			V3. 観測機器(X線・γ線)						
	E	X. 銀河形成			V1. 観測機器(電波)						
	F	M. 太陽			Q. 星間現象						
	G	P1. 星形成			P1. 星形成/P2. 原始惑						
	H	N. 恒星進化			N. 恒星進化						
9月10日 (木)	A	V2. 観測機器(光赤・重)	昼 休 み		V2. 観測機器(光赤・重)	特別 セッション (はやぶさ2)		受賞記念講演 第二部			
	B	Z1. 超巨大BH			Z1. 超巨大BH						
	C	W. コンパクト天体			W. コンパクト天体						
	D	R. 銀河									
	E	V1. 観測機器(電波)			V1. 観測機器(電波)						
	F	Q. 星間現象			Q. 星間現象						
	G	P2. 原始惑星系円盤			P2. 原始惑星系円盤						
	H	T. 銀河団									
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

◎講演数

講演数：合計 426
 (口頭講演 (a)：426)

◎参加登録について (参加者は、事前に必ず参加登録をしてください。)

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	無 料	無 料
(但し事前に参加登録が必要)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき)	10,000 円 (1 講演につき)
(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円 / 非会員 11,000 円)		
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：年会ホームページ

○参加登録受付期間：7月1日～7月31日 (今回は事前登録です)

※参加費については今回は無料です。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は8会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。座長の判断で、質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. PC及び通信環境はご自身でご用意をお願いいたします。発表に要する通信量等は、発表者の自己負担です。Zoomを利用しますので、Webページをご覧になり、事前にダウンロードや動作確認をしてください。また、発表者自身のインターネット接続、映像・音声等のトラブルの対応はできません。基本的にはご自身での解決をお願いいたします。
3. 講演者はセッション開始時刻の 10分前にはご入室ください。担当者が説明をいたします。また入室の際には、下記の命名規則に従って「参加者名」を設定してください。

「*(アスタリスク)」 + 「講演番号」 + 「氏名」 + 「(所属)」

例) 講演番号：Z141a、氏名：天文花子、所属：天文大学 の場合
 「参加者名」の表示：*Z141a 天文花子 (天文大学)
4. 講演の実施方法の詳細 (マニュアルなど) は、年会の Web ページ (<http://www.asj.or.jp/nenkai/>) に掲載いたします。事前に説明をよく読んで、Zoom の操作手順に関する理解を深めておいていただくようお願いいたします。
5. 受信画像や発表資料の保存 (キャプチャを含む)、録音や配布は固くお断りします。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
9月7日(月)	13:30 ~ 15:30	オンライン	記者会見
9月8日(火)	16:00 ~ 17:00	オンライン	天文教育フォーラム
	17:30 ~ 18:30	オンライン	特別セッション 国立天文台 -現状と今後- そのII
9月9日(水)	16:00 ~ 17:00	オンライン	会員全体集会
	17:30 ~ 19:00	オンライン	受賞記念講演 第一部
9月10日(木)	16:00 ~ 17:00	オンライン	特別セッション はやぶさ2 ミッションの挑戦・成果・今後の展開
	17:30 ~ 19:00	オンライン	受賞記念講演 第二部

◎会合一覧表

※今回、通常の会合は募集しておりません。

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否 [※]
9月7日(月)	16:00 ~ 18:00	オンライン	理事会	D
9月9日(水)	12:00 ~ 13:00	オンライン	代議員総会	D

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎天文教育フォーラム：「オンライン天文教育の可能性～小学校から大学院まで～」

- 日時：2020年9月8日（火）16：00～17：00
 場所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）
 概要：新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の事態が発生したことにより、研究・教育の現場では大きな混乱を生じている。天文学にあっても例外ではなく、多くの方々が三密を避け、オンラインをフル活用した研究教育活動の在り方を、四苦八苦しながら模索してきたのではないだろうか。
 しかし、大きなピンチは大きなチャンスに変わる可能性もあるのではなかろうか。我々はこの数か月間、いまだかつてないほどネットワークを活用し、あらたな教育手段を開発し、ときには失敗し、検証してきた。この経験と得られた知見の中には、今後の教育活動に活用できるものも多く含まれているはずである。
 そこで今回の天文教育フォーラムでは、教育工学、特に高等教育におけるICT活用の専門家として大学の遠隔授業サポートに当たっている京都大学の田口真奈氏を講師に迎え、今般のコロナ感染症対応で見えてきたオンライン授業の課題と可能性についてご紹介頂く。
 それとともに、天文教育分野におけるオンライン対応の事例や得られた知見を共有し、オンライン教育が来るべきニューノーマルの中でどのような地位を獲得するのか、などを議論していきたい。

基調講演：田口真奈氏（京都大学高等教育研究開発推進センター）

世話人：石井貴子（京都大学）、石田光宏（横浜市立戸塚高校）、磯部洋明（京都市立芸術大学）、鴈野重之（九州産業大学）、松本佳也（広島市交通科学館）

主催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

◎特別セッション：「国立天文台 一現状と今後一 そのⅡ」

- 日時：2020年9月8日（火）17：30～18：30
 場所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）
 概要：昨年の3月の本年会でも同じ特別セッションを開催させていただき、厳しくなりつつある予算的な状況を含めて説明させていただいた。国立天文台は今後もTMTをはじめとする大型観測装置を建設・運用する責任を果たしつつ、日本の天文学のナショナルセンター・COE研究所として最先端の研究成果を生み出していくために、様々な努力をしている最中である。
 本特別セッションでは、天文学分野の広い研究者コミュニティの皆様、国立天文台が置かれた現在の状況を理解していただき、同時に、この間に起きた種々の問題についても、日本の天文学の発展のために天文学コミュニティ等と国立天文台執行部との意思疎通を推進するために設置された「国立天文台コミュニティ間意思疎通推進委員会」から経過報告をしていただくと共に、コミュニティの研究者との意思疎通の改善にむけ、ご意見をいただく機会を設けるべく開催するものである。

プログラム：

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1. セッション趣旨説明 | 梅村雅之（日本天文学会会長） |
| 2. 国立天文台の置かれた状況について | 常田佐久（国立天文台長） |
| 3. 「国立天文台コミュニティ間意思疎通推進委員会」からの報告 | 観山正見（表記委員会委員長） |
| 4. 総合討論 | |

世話人：渡部潤一

主催：公益社団法人 日本天文学会

共催：自然科学研究機構 国立天文台

◎特別セッション：「はやぶさ2 ミッションの挑戦・成果・今後の展開」

日 時：2020年9月10日（木）16：00～17：00

場 所：オンライン会場（学会ホームページにて事前登録が必要）

概 要：小惑星探査機「はやぶさ2」は、2014年12月に打ち上げられ、2018年6月に小惑星リュウグウ到着、2019年11月にリュウグウ出発と順調にミッションをこなしてきた。現在は今年末の地球帰還をめざした運用が行われている。「はやぶさ2」は「はやぶさ」の後継ミッションだが、「はやぶさ」ではできなかったことを達成したり、世界初の試みをいくつも行うなど、探査技術において大きな進展があった。また、C型小惑星として探査の対象として選ばれたリュウグウについて、現地観測で得られたデータの解析が進められているが、いろいろと新しい事実が判明してきている。これだけでも、惑星科学に新しい展開をもたらすことになると思われるが、リュウグウのサンプルを分析できれば太陽系誕生時の有機物などについて新たなことが分かってくると期待されている。この特別セッションでは、「はやぶさ2」が実践した世界初の技術や、小惑星リュウグウについてこれまでに判明した科学的な知見、そして年末に迫ってきた再突入カプセルの回収について紹介する。現状を知っていただいた上で、今後の太陽系研究の新たな可能性を議論できれば幸いである。

プログラム：

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. セッションの主旨説明 | 吉川真（JAXA、はやぶさ2 ミッションマネージャ） |
| 2. 世界初の技術の紹介 | 津田雄一（JAXA、はやぶさ2 プロジェクトマネージャ） |
| 3. 小惑星リュウグウの科学 | 渡邊誠一郎（名古屋大学、はやぶさ2 プロジェクトサイエンティスト） |
| 4. リエントリーカプセル回収 | 中澤暁（JAXA、はやぶさ2 サブプロジェクトマネージャ） |
| 5. 今後の展開とまとめ | 吉川真 |
| 6. 質疑 | |

世話人：吉川真（JAXA）

口頭セッション 9月8日(火)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場
開始時刻	活動銀河核		惑星系	観測機器 (X線・γ線)	銀河形成	太 陽	星形成	恒星進化
10:00	S01a		P301a	V301a	X01a	M01a	P101a	N01a
10:12	S02a		P302a	V302a	X02a	M02a	P102a	N02a
10:24	S03a		P303a	V303a	X03a	M03a	P103a	N03a
10:36	S04a		P304a	V304a	X04a	M04a	P104a	N04a
10:48	S05a		P305a	V305a	X05a	M05a	P105a	N05a
11:00	S06a		P306a	V306a	X06a	M06a	P106a	N06a
11:12	S07a		P307a	V307a	X07a	M07a	P107a	N07a
11:24	S08a		P308a	V308a	X08a	M08a	P108a	N08a
11:36	S09a		P309a	V309a	X09a	M09a	P109a	N09a
11:48	S10a		P310a	V310a	X10a	M10a	P110a	N10a
12:00	S11a		-	-	-	-	-	-
12:12	S12a		-	-	-	-	-	-
12:00	昼休み							
開始時刻	教育・他		惑星系	観測機器 (X線・γ線)	銀河形成	太 陽	星形成	銀河形成
13:30	Y01a		P311a	V311a	X11a	M11a	P111a	N11a
13:42	Y02a		P312a	V312a	X12a	M12a	P112a	N12a
13:54	Y03a		P313a	V313a	X13a	M13a	P113a	N13a
14:06	Y04a		P314a	V314a	X14a	M14a	P114a	N14a
14:18	Y05a		P315a	V315a	X15a	M15a	P115a	N15a
14:30	Y06a		P316a	V316a	X16a	M16a	P116a	N16a
14:42	Y07a		P317a	V317a	X17a	M17a	P117a	N17a
14:54	Y08a		P318a	V318a	X18a	M18a	P118a	N18a
15:06	-		-	V319a	X19a	M19a	P119a	N19a
15:18	-		-	V320a	X20a	M20a	P120a	N20a
15:30	-		-	-	X21a	-	-	-
16:00	天文教育フォーラム							
17:30	特別セッション「国立天文台－現状と今後－ そのⅡ」							

口頭セッション 9月9日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	宇宙論	超巨大BH	コンパクト天体	観測機器(X線・γ線)	銀河形成	太陽	星形成	恒星進化
10:00	U01a	Z101r ゝ Z110a	W01a	V321a	X22a	M21a	P121a	N21a
10:12	U02a		W02a	V322a	X23a	M22a	P122a	N22a
10:24	U03a		W03a	V323a	X24a	M23a	P123a	N23a
10:36	U04a		W04a	V324a	X25a	M24a	P124a	N24a
10:48	U05a		W05a	V325a	X26a	M25a	P125a	N25a
11:00	U06a		W06a	V326a	X27a	M26a	P126a	N26a
11:12	U07a		W07a	V327a	X28a	M27a	P127a	N27a
11:24	U08a		W08a	V328a	X29a	M28a	P128a	N28a
11:36	U09a		W09a	V329a	X30a	M29a	P129a	N29a
11:48	U10a		W10a	V330a	X31a	M30a	P130a	N30a
12:00	-	-	-	-	-	-	-	-
12:00	昼休み(代議員総会)							
開始時刻	宇宙論	超巨大BH	コンパクト天体	観測機器(X線・γ線)	観測機器(電波)	星間現象	星形成/原始惑星系円盤	恒星進化
13:30	U11a	Z111r ゝ Z120a	W11a	V331a	V101a	Q01a	P131a	N31a
13:42	U12a		W12a	V332a	V102a	Q02a	P132a	N32a
13:54	U13a		W13a	V333a	V103a	Q03a	P133a	N33a
14:06	-		W14a	V334a	V104a	Q04a	P134a	N34a
14:18	-		W15a	V335a	V105a	Q05a	P135a	N35a
14:30	-		W16a	-	V106a	Q06a	P136a	-
14:42	-		W17a	-	V107a	Q07a	P137a	-
14:54	-		W18a	-	V108a	Q08a	P138a	-
15:06	-		W19a	-	V109a	Q09a	P201a	-
15:18	-		W20a	-	V110a	Q10a	P202a	-
15:30	-	-	-	-	-	-	-	-
16:00	会員全体集会							
17:30	受賞記念講演 第一部 林忠四郎賞/ 欧文研究報告論文賞							

口頭セッション 9月10日(木)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場
開始時刻	観測機器 (光赤・重)	超巨大BH	コンパクト 天体	銀 河	観測機器 (電波)	星間現象	原始惑星系 円盤	銀河団
10:00	V201a	Z121r ↷ Z130a	W21a	R01a	V111a	Q11a	P203a	T01a
10:12	V202a		W22a	R02a	V112a	Q12a	P204a	T02a
10:24	V203a		W23a	R03a	V113a	Q13a	P205a	T03a
10:36	V204a		W24a	R04a	V114a	Q14a	P206a	T04a
10:48	V205a		W25a	R05a	V115a	Q15a	P207a	T05a
11:00	V206a		W26a	R06a	V116a	Q16a	P208a	T06a
11:12	V207a		W27a	R07a	V117a	Q17a	P209a	T07a
11:24	V208a		W28a	R08a	V118a	Q18a	P210a	T08a
11:36	V209a		W29a	R09a	V119a	Q19a	P211a	T09a
11:48	V210a		W30a	R10a	V120a	Q20a	P212a	T10a
12:00	-	-	-	R11a	V121a	-	P213a	T11a
12:12	-	-	-	R12a	-	-	P214a	-
12:24	-	-	-	R13a	-	-	-	-
12:00	昼休み							
開始時刻	観測機器 (光赤・重)	超巨大BH	コンパクト 天体		観測機器 (電波)	星間現象	原始惑星系 円盤	
13:30	V211a	Z131r ↷ Z140a	W31a		V122a	Q21a	P215a	
13:42	V212a		W32a		V123a	Q22a	P216a	
13:54	V213a		W33a		V124a	Q23a	P217a	
14:06	V214a		W34a		V125a	Q24a	P218a	
14:18	V215a		W35a		V126a	Q25a	P219a	
14:30	V216a		W36a		V127a	-	P220a	
14:42	V217a		W37a		V128a	-	P221a	
14:54	V218a		W38a		V129a	-	P222a	
15:06	V219a		W39a		V130a	-	P223a	
15:18	V220a		W40a		-	-	P224a	
15:30	V221a	W41a		-	-	P225a		
16:00	特別セッション「はやぶさ2 ミッションの挑戦・成果・今後の展開」							
17:30	受賞記念講演 第二部 研究奨励賞							

Z1. 超巨大ブラックホール研究の新展開: 初撮像から形成進化の全貌解明へ

9月9日(水) 午前・B会場		9月9日(水) 午後・B会場	
10:00	Z101r EHTによる超巨大ブラックホールシャドウの直接撮像: 現状と今後 本間希樹(国立天文台)	13:30	Z111r ブラックホール時空構造と降着流・噴出流ダイナミクス: 次世代 EHT および電波から X線・ γ 線までの多波長研究へ 川島朋尚(東京大学)
10:24	Z102a EHT 動画撮像を用いた Sgr A* への落下ガス雲の解明とブラックホールスピンの測定 森山小太郎(マサチューセッツ工科大学)	13:54	Z112a 電波銀河研究の新展開: 強磁場降着流からのガンマ線とニュートリノ 木村成生(東北大学)
10:36	Z103a The origin of hotspots around Sgr A*: Orbital or pattern motion? 松本達矢(東京大学)	14:06	Z113a 活動銀河核ジェットにおける一般相対論的理想電磁流体近似解の構築 荻原大樹(東北大学)
10:48	Z104a 輻射輸送シミュレーションの新地平~ EHT 偏波イメージ予測で探る磁場構造 恒任優(京都大学)	14:18	Z114a 粒子シミュレーションで探るブラックホール磁気圏での電磁カスケード現象 木坂将大(東北大学)
11:00	Z105a Why the EHTC made an artifact black image and how to obtain real black hole shadow images in future. 三好真(国立天文台)	14:30	Z115a 磁気流体数値実験による AGN ジェットの電子加熱領域の調査 大村匠(九州大学)
11:12	Z106a Event Horizon Telescope によるブレイザー 3C279 の 20 マイクロ秒角スケールイメージング 秦和弘(国立天文台)	14:42	Z116a Multiphase AGN jet feedback Wagner Alexander(筑波大学)
11:24	Z107a M87 ジェット速度場データから探るジェット磁気圏の回転角速度と磁場強度 紀基樹(工学院大学)	14:54	Z117a AGN 輻射圧駆動アウトフローによる電波銀河 3C84 ジェットのコリメーション 川勝望(呉工業高等専門学校)
11:36	Z108a セイファート銀河 NGC 1068 のジェット・メーザーにおけるリング状分布の起源 須藤広志(岐阜大学)	15:06	Z118a MHD シミュレーションによる降着円盤の渦状高エントロピー構造の形成 町田真美(国立天文台)
11:48	Z109a セイファートのミリ波超過成分の起源 井上芳幸(理化学研究所)	15:18	Z119a 一般相対論的輻射磁気流体力学シミュレーションによるカー・ブラックホール周りの超臨界降着流の研究 内海碧人(筑波大学)
12:00	Z110a すばる望遠鏡で探る銀河系中心ブラックホール周囲の暗黒質量分布 孝森洋介(和歌山工業高等専門学校)	15:30	Z120a Changing Look AGN における軟 X 線放射領域の輻射磁気流体シミュレーション 五十嵐太一(千葉大学)

9月10日(木) 午前・B会場		9月10日(木) 午後・B会場	
10:00	Z121r 巨大ブラックホール周辺構造とその進化—現状と課題— 和田桂一(鹿児島大学)	13:30	Z131r 広域観測によるクエーサー探査：現状と展望 松岡良樹(愛媛大学)
10:24	Z122a バルジ形成に対する AGN フィードバックの影響 岡本崇(北海道大学)	13:54	Z132a ALMA 観測に基づく高赤方偏移低光度クエーサーの母銀河の多様性 泉拓磨(国立天文台)
10:36	Z123a 輻射力によって制御された遮蔽トーラス構造 工藤祐己(鹿児島大学)	14:06	Z133a Deep Near-Infrared Spectroscopy of a $z=7.54$ Quasar, ULAS J1342+0928 尾上匡房(MPIA)
10:48	Z124a 埋もれた AGN に対する中間赤外線シリケートダストの系統的観測研究 土川拓朗(名古屋大学)	14:18	Z134a IGM-galaxy connections around AGNs 百瀬莉恵子(東京大学)
11:00	Z125a コピュラを用いた AGN の電波-X線2変数光度関数推定と輻射過程への示唆 河野海(名古屋大学)	14:30	Z135a AGN クラスタリングで探る超巨大ブラックホール成長史 大木平(千葉大学)
11:12	Z126a <i>Chandra</i> と ALMA を用いた NGC 2110 における X 線による分子ガス破壊現象の検証 川室太希(Universidad Diego Portales/国立天文台)	14:42	Z136a 高赤方偏移銀河の Ly α 表面輝度に対する多重 AGN の影響 曾我健太(筑波大学)
11:24	Z127a X 線分光撮像衛星 XRISM による超巨大ブラックホールの研究 野田博文(大阪大学)	14:54	Z137a Hunting of the hidden wandering massive black hole population 稲吉恒平(Kavli Institute for Astronomy and Astrophysics)
11:36	Z128a X 線分光撮像衛星 XRISM による天の川銀河中心の観測計画 信川正順(奈良教育大学)	15:06	Z138a Structure and Instability of the Ionization Fronts around Moving Black Holes 杉村和幸(メリーランド大学)
11:48	Z129a 超巨大ブラックホールの進化を探る広帯域X線高感度撮像分光衛星 FORCE 森浩二(宮崎大学)	15:18	Z139a 低金属量環境下における超大質量ブラックホールの種形成 鄭昇明(東北大学)
12:00	Z130a サブ秒角からマイクロ秒角の角度分解能による活動銀河核のX線撮像：MIXIM を例にした長期的展望 林田清(大阪大学)	15:30	Z140a 超巨大ブラックホールの暗黒物質ハローからの分離—形成時間と質量分布 森川雅博(お茶の水女子大学)

M. 太陽

9月8日(火) 午前・F会場		9月8日(火) 午後・F会場	
10:00	M01a 高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星 (Solar-C EUVST) の現状 今田晋亮 (名古屋大学)	13:30	M11a 光球スペクトル線幅増大に微小乱流項はどの程度寄与しているか 石川遼太郎 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)
10:12	M02a Solar-C 計画における運用体制構築と成果創出へ向けた最近の取り組み 鳥海森 (宇宙航空研究開発機構)	13:42	M12a 機械学習を用いた太陽の放射強度から速度場を予測するコードの開発 正木寛之 (千葉大学)
10:24	M03a Verification of CLASP2's Polarization Accuracy Donguk Song (NAOJ)	13:54	M13a 強磁場黒点と力の関係について 石倉秋人 (千葉大学)
10:36	M04a 磁気リコネクションに伴う粒子加速の理解を目指す衛星計画 PhoENiX の進捗報告 (2020 年秋) 成影典之 (国立天文台)	14:06	M14a 太陽活動周期 21 期末から 24 期における、活動領域の磁場タイプ別の出現数・面積・観測的寿命・フレア活動の統計的検討 滝澤寛 (神奈川工科大学 / 早稲田大学 高等学院)
10:48	M05a SUNRISE-3 気球実験と偏光分光装置 SCIP の開発状況 勝川行雄 (国立天文台)	14:18	M15a 輻射磁気流体シミュレーションを用いた黒点超強力磁場生成機構の研究 堀田英之 (千葉大学)
11:00	M06a 惑星間空間シンチレーション観測データを取り込んだ MHD シミュレーションによる太陽嵐到来予報の精度評価 岩井一正 (名古屋大学)	14:30	M16a Tomography of plage and network magnetic fields from Hinode and CLASP2 observations 石川遼子 (国立天文台)
11:12	M07a 太陽高エネルギー粒子 (SEP) とコロナ質量放出 (CME) の関係性に対する統計的研究 木原孝輔 (京都大学)	14:42	M17a 磁気静水圧平衡非フォースフリー磁場モデルによる太陽浮上磁場の再構成 : 背景温度分布の影響 三好隆博 (広島大学)
11:24	M08a 太陽メートル波帯 II 型電波バーストのスペクトル微細構造と高エネルギー粒子現象との関係 三澤浩昭 (東北大学)	14:54	M18a 低 β 環境におけるプラズモイド型乱流リコネクション 銭谷誠司 (神戸大学)
11:36	M09a Numerical study of fast and slow MHD waves in heating solar magnetic chromosphere by realistic simulation Yikang Wang (The University of Tokyo)	15:06	M19a 電流シート平衡から開始する一般的な状況での磁気リコネクション・モデル 新田伸也 (筑波技術大学)
11:48	M10a アルベーン波乱流加熱を考慮したコロナループ加熱シミュレーション 甲斐達也 (東京大学)	15:18	M20a 不安定性理論に基づく太陽フレアの予測と発生機構の解明 草野完也 (名古屋大学)

N. 恒星・恒星進化

9月9日(水) 午前・F会場		9月8日(火) 午前・H会場	
10:00	M21a 深層学習を用いた太陽フレア発生確率予報の信頼度向上 西塚直人(情報通信研究機構)	10:00	N01a 重力崩壊型超新星爆発における非対称 γ 放射の元素合成への影響 II 藤本信一郎(熊本高等専門学校)
10:12	M22a 数値モデルによる太陽フレア EUV 放射スペクトル観測の検証 西本将平(防衛大学校)	10:12	N02a 重力崩壊型超新星における νp プロセス元素合成と p 核の起源 西村信哉(理化学研究所)
10:24	M23a TESS と MAXI を用いた恒星フレアにおける白色光フレアエネルギーと X 線最大光度の関係 岡本豊(中央大学)	10:24	N03a 超新星の親星水素外層とフォールバック降着の相関性 澤田涼(京都産業大学)
10:36	M24a 超小型衛星を用いた太陽フレアからの熱的・非熱的放射の時間発展の研究 II 長澤俊作(東京大学 Kavli IPMU)	10:36	N04a 重力崩壊直前の大質量星の酸素-ケイ素対流燃焼層における3次元対流の進化 吉田敬(東京大学)
10:48	M25a 太陽コロナを想定した磁気リコネクションの Hall MHD 計算 村上享平(名古屋大学)	10:48	N05a 中心エンジンモデルに基づいた超高輝度超新星の2次元輻射流体シミュレーション 鈴木昭宏(国立天文台)
11:00	M26a NoRH と MUSER で同時観測された2015年11月22日の微小フレア 増田智(名古屋大学)	11:00	N06a ブラックホールによる白色矮星の潮汐破壊現象からの観測兆候の多様性 川名好史朗(東京大学)
11:12	M27a 紫外線における高階電離鉄輝線を用いたイオン組成比診断 川手朋子(核融合科学研究所)	11:12	N07a 超新星爆発でのイジェクタ質量の推定 松本達矢(東京大学)
11:24	M28a Data-driven MHD simulation of minifilament eruption 金子岳史(名古屋大学)	11:24	N08a 前兆ニュートリノの恒星進化モデル依存性 加藤ちなみ(東北大学)
11:36	M29a 京都大学飛騨天文台 SMART/SDDI を用いたフィラメント噴出・消失現象の3次元速度場の導出 木村なみ(京都大学)	11:36	N09a <i>XMM-Newton</i> 衛星搭載 RGS 検出器で探る Kepler 超新星残骸における星周物質の空間分布 春日知明(東京大学)
11:48	M30a ビリアル定理から求めた熱的プラズマの磁気モーメント 柴崎清登(太陽物理学研究所)	11:48	N10a X線精密分光観測によって迫る超新星残骸 RX J1713.7-3946 の親星推定 立石大(埼玉大学)

9月8日(火) 午後・H会場		9月9日(水) 午前・H会場	
13:30	N11a 余剰次元とニュートリノ磁気モーメントによる中質量星のセファイド・ループの消滅 森寛治(東京大学)	10:00	N21a KWFC銀河面変光天体探査(KISOGP)-V 松永典之(東京大学)
13:42	N12a 太陽型星のスーパーフレアに伴うH α 線放射・プラズマ噴出現象の世界初検出 行方宏介(京都大学)	10:12	N22a AKARI, WISEによるダストに埋もれたAGB星の中間赤外線長期変光調査 橋健吾(東京大学)
13:54	N13a 太陽型恒星コロナの系統的X線分光解析 志村拓馬(名古屋大学)	10:24	N23a 天の川銀河のミラ型変光星と漸近巨星分枝星の進化の金属量依存性 浦郷陸(鹿児島大学)
14:06	N14a ゼロ・低金属量星コロナからの高エネルギー放射に関する系統的研究 鷲ノ上遥香(東京大学)	10:36	N24a AGB星周縁における光学的厚みとCO, ¹³ CO($J=1 \rightarrow 0$)輝線強度比 甘田溪(鹿児島大学)
14:18	N15a 多波長モニタ観測で探るM型星フレアのバルマー線の輝線輪郭非対称性I 野津湧太(コロラド大学)	10:48	N25a ミラ型変光星かんむり座S星の星周縁における衝撃波伝播パターンの発見 今井裕(鹿児島大学)
14:30	N16a せいめい望遠鏡とTESS, 小口径望遠鏡によるM型星フレアの同時測光分光観測 前原裕之(国立天文台)	11:00	N26a 熱パルスAGB段階での磁気駆動風への脈動の影響 保田悠紀(北海道大学)
14:42	N17a K型主系列星PW Andにおける自転に伴うH α 輝線の変化 村瀬洗太郎(兵庫県立大学)	11:12	N27a 非変光OH/IR星の近赤外線長期増光現象の発見 上塚貴史(東京大学)
14:54	N18a Mg I輝線を用いた若い恒星の彩層活動の調査 山下真依(兵庫県立大学)	11:24	N28a The common envelope evolution beyond the dynamic in-spiral: homologous dynamics and dust formation Roberto Iaconi (Kyoto University)
15:06	N19a ベテルギウスの今季大減光期における有効温度と有効半径の変化について 大島修(岡山理科大学)	11:36	N29a 水素輝線等価幅とバルマー通減率のモニタリングから探るBe星の円盤構造 石田光宏(横浜市立戸塚高等学校)
15:18	N20a 褐色矮星の大気構造およびスペクトル形状へのダストサイズ依存性 空華智子(国立天文台)	11:48	N30a γ Dor型脈動変光星で検出されるロスピー・モードを用いた内部構造診断 高田将郎(東京大学)

P1. 星・惑星形成 (星形成)

9月9日(水) 午後・H会場		9月8日(火) 午前・G会場	
13:30	N31a The chromospheric helium line at 10830 Å : observational trends with stellar parameters and the synthetic spectra Mingjie Jian (The University of Tokyo)	10:00	P101a 初代星形成における星周円盤の非定常モデル 木村和貴(京都大学)
13:42	N32a 近赤外線高分散分光器 WINERED : Mg、Si、Ca、Ti、Cr、Ni の化学組成導出に用いる YJバンド中の吸収線の選定 福江慧(京都産業大学)	10:12	P102a 磁場環境下での初代星形成過程 定成 健児エリック(東北大学)
13:54	N33a SVC: 高分散分光スペクトルの連続波を高精度に規格化する新手法 谷口大輔(東京大学)	10:24	P103a 原始ガス雲の進化における Ly α 放射の水素分子抑制効果について 阿左美進也(筑波大学)
14:06	N34a 金属欠乏星における二重線分光連星の割合 青木和光(国立天文台)	10:36	P104a 宇宙初期における低質量星の形成過程とその変遷 藤本正行(北海道大学)
14:18	N35a 金属欠乏星データベースと Gaia のクロスマッチで見る銀河系の星種族の分類 須田拓馬(放送大学/東京大学)	10:48	P105a Public Release of A-SLOTH: Ancient Stars and Local Observables by Tracing Haloes Tilman Hartwig (The University of Tokyo)
		11:00	P106a 星団形成における輻射フィードバックについて 福島肇(筑波大学)
		11:12	P107a 大質量近接連星の形成における磁気制動の重要性 原田直人(九州大学)
		11:24	P108a 星団形成シミュレーションコード「ASURA+BRIDGE」 藤井通子(東京大学)
		11:36	P109a 分子雲形成期における多相星間媒質の時間発展 小林将人(東北大学)
		11:48	P110a Massive Core/Star Formation Triggered by Cloud-Cloud Collision IV: Effect of Magnetic Field in High-Speed Collisions Nirmit Deepak Sakre (Hokkaido University)

9月8日(火) 午後・G会場		9月9日(水) 午前・G会場	
13:30	P111a BISTRO Project Status (8) Tetsuo Hasegawa(NAOJ)	10:00	P121a 星間ダスト表面における光化学反応実験のための装置の立ち上げと初期成果 谷口琴美(学習院大学)
13:42	P112a Witnessing the fragmentation of filaments into prestellar cores in Orion B/NGC 2024 島尻芳人(国立天文台)	10:12	P122a 表面の氷マントル形成によるダスト成長モデルの構築 古賀駿大(九州大学)
13:54	P113a オリオン領域における位置天文衛星 Gaia のデータ解析と星形成 経澤和見(お茶の水女子大学)	10:24	P123a 低質量原始星エンベロップの H ₂ O 関連分子組成に対する X 線放射の影響 野津翔太(理化学研究所)
14:06	P114a オリオン A 分子雲の Integral Shape Filament における分子雲コアの質量関数 竹村英晃(総合研究大学院大学/国立天文台)	10:36	P124a Connecting Sulfur-bearing Species and Dust Polarization of the Protostars in the Perseus Molecular Cloud Ziwei E. Zhang(RIKEN)
14:18	P115a フィラメントの重力不安定性により形成されるコアの統計的性質について 三杉佳明(名古屋大学)	10:48	P125a Chemical properties of young stellar objects in the Magellanic Clouds Sarolta Zahorecz(Osaka Prefecture University/NAOJ)
14:30	P116a 分子雲におけるフィラメント状構造の起源 安部大晟(名古屋大学)	11:00	P126a LMT50m 鏡に搭載した 2mm 帯受信機 B4R によるオリオン分子雲(OMC-1)の高感度分子輝線マッピング観測: デモ科学観測の概要と輝線同定 川邊良平(国立天文台)
14:42	P117a 磁場に貫かれたフィラメント状分子雲の平衡状態における温度勾配の影響 柏木頼我(総合研究大学院大学)	11:12	P127a ALMA ACA サーベイで探る Corona Australis 領域の星形成(1): 初期成果 立原研悟(名古屋大学)
14:54	P118a Aquila Rift complex の分子雲構造 下井倉ともみ(大妻女子大学)	11:24	P128a ALMA による原始星天体 NGC 2264 CMM3A の回転構造の検出 柴山良希(東京大学)
15:06	P119a ALMA observation of 70 μ m dark high-mass clump G23.477 森井嘉穂(東京大学/国立天文台)	11:36	P129a OMC-2/FIR3 および FIR4 領域におけるダスト連続波源とアウトフローの同定 佐藤亜紗子(九州大学)
15:18	P120a Statistical Analysis of the Core-scale Fragmentation in High-mass Star-forming Regions with ALMA 石原昂将(総合研究大学院大学)	11:48	P130a オリオン大星雲 2 Class0 天体 FIR6c から駆動するアウトフローの CO, SiO 分子輝線から探る構造 松下祐子(国立天文台)

P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)

9月9日(水) 午後・G会場		9月9日(水) 午後・G会場	
13:30	P131a Class 0 低質量原始星天体 IRAS 16293 - 2422 Source A のアウトフロー構造 大屋瑠子(東京大学)	15:06	P201a ALMA Observations of the Protostellar Binary System L1551 IRS 5: Resolving the Gas Motion inside the Hill Radii Shigehisa Takakuwa (Kagoshima University)
13:42	P132a Discovery of the Secondary Outflow Structure in IRAS 15398-3359 大小田結貴(東京大学)	15:18	P202a 超低光度前主系列星 J162656.43-243301.5 周囲の transition disk の ALMA 観測 杉谷朱泉(鹿児島大学)
13:54	P133a 磁場の向きと回転軸が非平行な場合の連星形成とジェット/アウトフローの駆動 佐伯優(九州大学)		
14:06	P134a Class0 原始星 L483 の 40 au スケールのアウトフロー 藤田孝典(東京大学)		
14:18	P135a ALMA による Class I 原始星 Elias 29 のアウトフローの詳細構造 雑賀恵理(東京大学)		
14:30	P136a 流体力学に基づいた回転降着エンベロープの模擬観測: 中心星質量の推定 森昇志(東京大学)		
14:42	P137a 原始星 L1489 IRS のマルチスケール観測: ~1,000 - 10 ⁴ au スケールの力学構造 崔仁士(東京大学/台湾中央研究院)		
14:54	P138a ALMA ACA サーベイで探る Taurus 領域分子雲コア進化の統計的研究(4): N ₂ D ⁺ 輝線と 1.3 mm 連続波の比較から考察する分子雲コア進化段階 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)		

9月10日(木) 午前・G会場		9月10日(木) 午後・G会場	
10:00	P203a The surprisingly low carbon mass in the debris disk around HD 32297 Gianni Cataldi (The University of Tokyo)	13:30	P215a H ₂ O 氷の 3 μ m 散乱偏光フィーチャーの起源と原始惑星系円盤への応用 田崎亮(工学院大学)
10:12	P204a 原始惑星系円盤 HD142527 の ALMA 長波長偏光観測 片岡章雅(国立天文台)	13:42	P216a ミリ波散乱減光が原始惑星系円盤の質量推定に与える影響 植田高啓(国立天文台)
10:24	P205a 原始惑星系円盤 HD 163296 のミリ波連続波観測からのダストスケールハイトの制限 土井聖明(総合研究大学院大学/国立天文台)	13:54	P217a 原始惑星系円盤における赤道面非対称な磁場構造の形成 岩崎一成(国立天文台)
10:36	P206a ALMA ミリ波偏光観測と VLA センチ波観測による原始惑星系円盤 IRS48 のダストサイズ分布 大橋聡史(理化学研究所)	14:06	P218a 原始惑星系円盤への宇宙線の侵入とガスの電離について 藤井悠里(名古屋大学)
10:48	P207a 原始惑星系円盤における N ₂ H ⁺ , N ₂ D ⁺ 輝線観測データの解析 大和義英(東京大学)	14:18	P219a 原始惑星系円盤上のガス渦が作り出すチャンネルマップ上の捻じれ 小野智弘(東京工業大学)
11:00	P208a ngVLA による原始惑星系円盤観測, 及び ALMA 観測とのシナジー 百瀬宗武(茨城大学)	14:30	P220a 惑星移動がギャップ構造に及ぼす影響 金川和弘(東京大学)
11:12	P209a ngVLA と ALMA を用いた岩石惑星形成領域の温度構造の断層撮影 奥住聡(東京工業大学)	14:42	P221a 中質量星周りの円盤の消失における恒星進化の影響について 國友正信(久留米大学)
11:24	P210a 円盤風で進化する原始惑星系円盤における新しいダスト成長メカニズム 瀧哲朗(国立天文台)	14:54	P222a 原始惑星系円盤進化の中心星質量への依存性 中野龍之介(東京大学)
11:36	P211a 低質量比ダストアグリゲイト間衝突による成長と破壊 長谷川幸彦(東京大学)	15:06	P223a 原始惑星系円盤光蒸発の輻射流体計算: 中心星質量・光度依存性 駒木彩乃(東京大学)
11:48	P212a 原始惑星系円盤のダストと鉛直シア不安定性の共進化: 線形解析からの示唆 福原優弥(東京工業大学)	15:18	P224a 惑星由来の水素輝線放射のモデル化: PDS70b, c の形成過程への制約 青山雄彦(清華大学)
12:00	P213a ダストリング構造の重力崩壊による微惑星形成 高橋実道(国立天文台)	15:30	P225a 二次元数値流体計算による巨大惑星へのガス降着モデルの検証 中澤佐穂(東北大学)
12:12	P214a 原始惑星系円盤中でのダストから惑星まで一貫した直接合体成長の理論的研究 小林浩(名古屋大学)		

P3. 星・惑星形成(惑星系)

9月8日(火) 午前・C会場		9月8日(火) 午後・C会場	
10:00	P301a 視線速度を用いた長周期連星ブラックホールの探査の提案と検証 II 林利憲(東京大学)	13:30	P311a 恒星活動による光度変化の波長依存性: ヒアデス星団低温度星の多波長測光モニター観測 宮川浩平(東京工業大学)
10:12	P302a 恒星間彗星 2I/Borisov の偏光観測 古荘玲子(都留文科大学)	13:42	P312a 地上望遠鏡を用いた TRAPPIST-1g トランジット分光による惑星大気と主星表面の不均一性の解析 森万由子(東京大学)
10:24	P303a 小惑星の自転加速による変形とリュウグウなどのコマ型小惑星の形成条件 杉浦圭祐(東京工業大学)	13:54	P313a 系外惑星の大気透過光スペクトルにおける超レイリースロープ: 光化学ヘイズによる説明 大野和正(東京工業大学)
10:36	P304a 2019年10月りゅう座流星群の多地点流星電波観測 石村周平(茨城大学)	14:06	P314a <i>Spitzer</i> 宇宙望遠鏡を用いたスペースパララックス効果による重力マイクロレンズイベントの質量決定 近藤依央菜(大阪大学)
10:48	P305a ガリレオ衛星における生命発生の必要条件の考察 鴨川弘幸(防衛大学校)	14:18	P315a 惑星候補イベント MOA-bin-175/OGLE-2011-BLG-1303 の解析 佐藤佑樹(大阪大学)
11:00	P306a ALMA で検出された木星衛星イオの二酸化硫黄噴火ガス 古賀亮一(名古屋大学)	14:30	P316a 光蒸発による原始惑星系円盤散逸がスーパーアースの大気量に及ぼす影響 萩原正博(国立天文台)
11:12	P307a 10m 電波望遠鏡 SPART と ALMA TP 同日観測による金星中層大気-酸化炭素スペクトルのマルチバンド解析 富原彩加(大阪府立大学)	14:42	P317a スーパーアース同士の巨大衝突に伴う水素大気散逸効率 黒崎健二(名古屋大学)
11:24	P308a 近赤外中分散エシェル分光器 /PIRKA 望遠鏡による金星大気物質循環へのアプローチ 前澤裕之(大阪府立大学)	14:54	P318a 巨大衝突によって形成される惑星系の軌道構造の中心星質量依存性 II 星野遥(東京大学)
11:36	P309a 多様な惑星系天体形成とその検証-ガスボイド外縁モデルから- 森川雅博(お茶の水女子大学)		
11:48	P310a 大気散逸を考慮した M 型星周りのハビタブルゾーンの再評価(2) 山敷庸亮(京都大学)		

Q. 星間現象

Q. 星間現象

9月9日(水) 午後・F会場		9月10日(木) 午前・F会場	
13:30	Q01a 野辺山45m鏡FOREST受信機による銀河面COサーベイ データを用いた分子雲形成の観測的研究 中西裕之(鹿児島大学)	10:00	Q11a Cloud-Cloud Collision in the Galactic Center Arc II Masato Tsuboi (JAXA)
13:42	Q02a 分子ガスの速度構造から探る, W3分子雲複合体における大質量星形成 山田麟(名古屋大学)	10:12	Q12a 銀河系中心領域における特異分子雲“Tadpole”の発見 金子美由起(慶應義塾大学)
13:54	Q03a NGC 1333における分子雲衝突 阪本茉莉子(名古屋大学)	10:24	Q13a NRO 45m 望遠鏡を使用した広速度幅分子ガス成分 CO 16.134 - 0.554 の分子スペクトル線観測 横塚弘樹(慶應義塾大学)
14:06	Q04a NGC 2023/2024領域における大質量星形成 榎谷玲依(慶應義塾大学)	10:36	Q14a VLBI 観測による Sgr B2 領域の水メーザー3次元速度構造の測定 酒井大裕(国立天文台)
14:18	Q05a 水素原子雲における星形成 福井康雄(名古屋大学)	10:48	Q15a XMM-Newton と NuSTAR による Ia 型超新星残骸 3C397 の鉄族元素の空間分布測定 大城勇憲(東京大学)
14:30	Q06a R136 領域における星形成と超新星残骸 山根悠望子(名古屋大学)	11:00	Q16a 超新星残骸 G350.1-0.3 におけるイジェクタ速度の測定 土岡智也(立教大学)
14:42	Q07a 中性水素ガス衝突による大質量星団形成の初期条件依存性についての研究 前田龍之介(名古屋大学)	11:12	Q17a 超新星残骸 N132D の高分解能 X 線分光解析によるプラズマ診断 鈴木瞳(東京都立大学)
14:54	Q08a 小マゼラン雲の N83/N84 領域における分子雲形成 大野峻宏(名古屋大学)	11:24	Q18a 超新星残骸の衝撃波における X 線の熱的放射と非熱的放射の関係 辻直美(理化学研究所)
15:06	Q09a 大小マゼラン雲の重元素量分布と銀河間相互作用 柘植紀節(名古屋大学)	11:36	Q19a ALMA による TeV ガンマ線超新星残骸 N132D の観測 佐野栄俊(国立天文台)
15:18	Q10a 中高銀緯広域における中間速度雲の重元素量空間分布 早川貴敬(名古屋大学)	11:48	Q20a 熱的 X 線・ガンマ線観測を通じた超新星残骸からの宇宙線逃亡タイムスケールの測定 鈴木寛大(東京大学)

R. 銀河

9月10日(木) 午後・F会場		9月10日(木) 午前・D会場	
13:30	Q21a MeVガンマ線撮像分光気球実験SMILEによる銀河中心領域の観測 水村好貴(宇宙航空研究開発機構)	10:00	R01a VERAによる位置天文データのカタログ作成 廣田朋也(国立天文台)
13:42	Q22a 銀河スケールの ^{26}Al 空間分布と近傍超新星爆発起因の ^{26}Al バブル 藤本裕輔(Carnegie Institution for Science)	10:12	R02a Atacama Compact Arrayによる渦巻銀河M33の ^{12}CO , ^{13}CO $J=2-1$ 広域観測 村岡和幸(大阪府立大学)
13:54	Q23a 量子化学計算による $\text{C}_2\text{H}_2\text{N}_2$ の形成プロセスの探索 米津鉄平(大阪府立大学)	10:24	R03a ALMAによる渦巻銀河M33の巨大分子雲の高分解能観測(5): $10^6 M_\odot$ に及ぶ巨大分子雲の性質とその進化 近藤滉(大阪府立大学)
14:06	Q24a すざく衛星の観測による太陽風電荷交換反応由来の S_{XVI} 輝線の発見 朝倉一統(大阪大学)	10:36	R04a 棒渦巻銀河NGC 613の中心領域におけるガスダイナミクスと星形成の関係 佐藤景亮(筑波大学)
14:18	Q25a Can Warm-hot Intergalactic Medium Account for the Spatial Fluctuation of the Soft Diffuse X-ray Background? Zhou Yu (JAXA)	10:48	R05a $^{12}\text{CO}(J=1-0)/^{13}\text{CO}(J=1-0)$ 輝線強度比による近傍の棒渦巻銀河Maffei2の分子ガスの物理状態 矢島義之(北海道大学)
		11:00	R06a 相互作用銀河NGC4567/4568の衝突領域における分子ガスの物理状態 鴫田 翔哉(筑波大学)
		11:12	R07a スターバースト銀河M82の銀河風領域における重元素分布の解明 八木雄大(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
		11:24	R08a 超矮小銀河の化学進化: 中性子捕獲過程とバリウムの起源 垂水勇太(東京大学)
		11:36	R09a M87中心のSMBH連星からの重力波が観測される可能性 船渡陽子(東京大学)
		11:48	R10a Gaia DR2を用いた、銀河系中心由来の超高速星(hypervelocity stars)の探索 服部公平(Carnegie Mellon University)
		12:00	R11a N体シミュレーションで探る太陽近傍の星の位相空間分布とバーの共鳴軌道との関係 朝野哲郎(東京大学)

S. 活動銀河核

12:12	R12a	銀河渦状腕中の星のエピサイクル位相同期 II 吉田雄城 (東京大学)	9月8日 (火) 午前・A会場
12:24	R13a	偏波解消効果を取り入れた渦状銀河の電波帯疑似観測 田嶋裕太 (九州大学)	10:00 S01a 活動銀河核ウインドからの高エネルギーニュートリノ・ガンマ線放射 井上進 (理化学研究所)
			10:12 S02a <i>XRISM</i> observations of a UV line driven disc wind in AGN 水本岬希 (京都大学)
			10:24 S03a クェーサー付随 NAL 吸収体の幾何的分布に関する調査 伊東大輔 (信州大学)
			10:36 S04a クランピートーラスからの X 線スペクトルモデル (XCLUMPY) を用いた Compton-thick AGN の広帯域 X 線スペクトル系統解析 谷本敦 (東京大学)
			10:48 S05a XCLUMPY モデルを用いた Circinus galaxy におけるトーラス内縁半径の推定 植松亮祐 (京都大学)
			11:00 S06a 分子トーラスでの CO 振動回転遷移吸収線観測と理論モデルの比較・検証 松本光生 (東京大学/宇宙航空研究開発機構)
			11:12 S07a 「すざく」による I 型 AGN NGC 4593 の Fe-K α 変動性を用いた AGN 構造の制限 峯田大靖 (大阪大学)
			11:24 S08a 時間変動解析を用いた Radio loud 狭輝線セイファート1型銀河 1H 0323+342 の X 線スペクトル成分分解 服部兼吾 (大阪大学)
			11:36 S09a ブレーザー 1ES 1959+650 の 2016 年 TeV フレアの多波長観測 高橋光成 (東京大学)
			11:48 S10a ALMA Polarization Monitoring of Extragalactic Radio Sources 亀野誠二 (Joint ALMA Observatory, 国立天文台)
			12:00 S11a 電波銀河 M87 の軟～硬 X 線スペクトルの推移および中心コアと HST-1 の光度変動 今澤遼 (広島大学)

T. 銀河団

12:12	S12a 電波銀河のガンマ線背景放射への寄与 深沢泰司（広島大学）	9月10日（木）午前・H会場	
		10:00	T01a XMM衛星データを用いた MCXCJ0157.4-0550の2次元温度密度 構造の解析3 楊冲（広島大学）
		10:12	T02a HSC-SSP サーベイ領域 Weak Lensing 銀河団のX線フォローアップ計画(6) 作田皓基（名古屋大学）
		10:24	T03a HSC-SSP 領域内の可視光で選択された 衝突銀河団のX線フォローアップ計画(2) 田中桂悟（金沢大学）
		10:36	T04a BARYON BUDGET IN THE XXL CLUSTERS II 秋野大知（広島大学）
		10:48	T05a Active gas features in three HSC-SSP CAMIRA clusters revealed by high angular resolution analysis of MUSTANG-2 SZE and XXL X-ray observations 岡部信広（広島大学）
		11:00	T06a X線天文衛星 XMM-Newton を用いた Abell2147 銀河団の力学的進化の解明 清水里紗（埼玉大学）
		11:12	T07a DisPerSE を用いた HSC-SSP サーベイ 領域内の大規模構造の同定 山本涼一（広島大学）
		11:24	T08a すばる望遠鏡で見つかった青い銀河団 のX線ガスの性質 美里らな（奈良女子大学）
		11:36	T09a フェニックス銀河団の冷却コア(1) ATCA によるAGN ジェットの初解像 赤堀卓也（国立天文台）
		11:48	T10a フェニックス銀河団の冷却コア(2) ALMA によるSZ効果の高解像度測定 北山哲（東邦大学）
		12:00	T11a 銀河団からの電磁波・ニュートリノ放射 の次元モデリング II 西脇公祐（東京大学）

U. 宇宙論

U. 宇宙論

9月9日(水) 午前・A会場		9月9日(水) 午後・A会場	
10:00	U01a 重力波観測で測る宇宙の曲率 永野陽菜子(福岡大学)	13:30	U11a 超長波長密度ゆらぎによる潮汐場を考慮した宇宙論的 N 体シミュレーション 正木彰伍(鈴鹿工業高等専門学校)
10:12	U02a ビッグバンから宇宙の晴れ上がりまでの連続性を考慮したパラメータ制限 山崎大(茨城大学/国立天文台)	13:42	U12a 宇宙大規模構造のアンチエイジング II: 密度場再構築後のパワースペクトルの共分散 日影千秋(Kavli IPMU)
10:24	U03a 宇宙マイクロ波背景放射観測実験「POLARBEAR」による B モード偏光観測結果の総括 茅根裕司(東京大学)	13:54	U13a Modeling the statistics of cosmological dispersion measure with the IllustrisTNG simulations 高橋龍一(弘前大学)
10:36	U04a 次世代宇宙背景放射観測実験 Simons Observatory の開発状況 仲村佳悟(Kavli IPMU)		
10:48	U05a 熱的スニヤエフ・ゼルドビッチ効果と CMB の光学的厚みの非等方性との相互相関を用いた宇宙再電離の探査 並河俊弥(ケンブリッジ大学)		
11:00	U06a CMB シャドウ: 宇宙マイクロ波背景放射偏光・温度異方性への星間減光の効果 梨本真志(東北大学)		
11:12	U07a CMB レンズング解析における観測誤差の伝搬 II 永田竜(宇宙航空研究開発機構)		
11:24	U08a 重力レンズクエーサーによる小スケール密度ゆらぎの測定 井上開輝(近畿大学)		
11:36	U09a 陽子はどのようになっているか。電子はどのようになっているか。その事を検証するため「高エネルギー加速器で、陽子と陽子を衝突させたときどのようになるか」を用いる。この原理を用い発電機を作る。 小堀しづ		
11:48	U10a 宇宙の姿と物質構造を考える 藤原ケイ		

V1. 観測機器 (電波)

9月9日(水) 午後・E会場		9月10日(木) 午前・E会場	
13:30	V101a 200 GHz帯/300 GHz帯分離 導波管フィルタを用いた SIS 受信機の開発 増井翔(大阪府立大学)	10:00	V111a Update on ALMA Operations and Development Program – Autumn 2020 Alvaro Gonzalez (NAOJ)
13:42	V102a 広帯域 IF(4-21GHz) 出力を持つ SIS 受信機に付加されるLO系起因の過剰雑音 横山航希(大阪府立大学)	10:12	V112a ALMA, 野辺山データ解析パイプラインの開発と2020年秋リリースのハイライト 杉本香菜子(国立天文台)
13:54	V103a デジタル分光計 XFFTSへの 2.5-5 GHz 入力の検討 南大晴(大阪府立大学)	10:24	V113a ALMA データ解析ソフト CASA の開発 11 中里剛(国立天文台)
14:06	V104a 導波管の周波数帯域限界に迫る 210-375 GHz 帯コルゲートホーンの開発進捗 山崎康正(大阪府立大学)	10:36	V114a 高速デジタイザを用いた 4-21 GHz 広帯域 IF 受信機システムの構築とその評価 小嶋崇文(国立天文台)
14:18	V105a 1.85m 電波望遠鏡に搭載する 210-375 GHz 帯光学系の開発 大川将勢(大阪府立大学)	10:48	V115a Progress in Device Fabrication at SIS Cleanroom in NAOJ Wenlei Shan (NAOJ)
14:30	V106a 1.85m 電波望遠鏡の新制御システムの開発: 性能評価と試験観測 松本健(大阪府立大学)	11:00	V116a ALMA 受信機用広帯域光学系コンポーネントの開発 (IV) 金子慶子(国立天文台)
14:42	V107a FITSWebQL SE (Supercomputer Edition) の開発状況 Christopher Zapart (国立天文台)	11:12	V117a ミリ波帯誘電体材料評価システムの構築と誘電率測定結果の妥当性検証 坂井了(国立天文台)
14:54	V108a 北半球最高感度ミリ波サブミリ波ヘテロダイン受信システム LMT-FINER I. デジタルサイドバンド分離広帯域分光計ファームウェアの開発 田村陽一(名古屋大学)	11:24	V118a 高感度サブミリ波マルチビーム受信機光学系開発に向けた収差が開口能率に及ぼす影響の調査 政井崇帆(総合研究大学院大学)
15:06	V109a スパースモデリングを使ったサブミリ波分光観測の高感度化 谷口暁星(名古屋大学)	11:36	V119a 連続波を用いた W バンド SIS アップコンバータの利得測定 上月雄人(電気通信大学)
15:18	V110a 火星周回機を想定した THz ヘテロダイン分光による放射輸送シミュレーション 濱口優輝(大阪府立大学)	11:48	V120a ASTE の運用 (5) 阪本成一(国立天文台)
		12:00	V121a The Next Generation Very Large Array 伊王野大介(国立天文台)

V2. 観測機器 (光赤外・重力波・その他)

9月10日(木) 午後・E会場		9月10日(木) 午前・A会場	
13:30	V122a SKA プロジェクトへの参加計画 2 小林秀行(国立天文台)	10:00	V201a 国立天文台共同利用 大規模観測データ解析システム III 計算ノード増設 磯貝瑞希(国立天文台)
13:42	V123a 6-23 GHz 天文観測用超広帯域フィードアンテナの開発 長谷川豊(大阪府立大学)	10:12	V202a すばる望遠鏡・観測提案書審査システム PRORES の開発 八木雅文(国立天文台)
13:54	V124a 広帯域フィードの開発(XVIII) 氏原秀樹(情報通信研究機構)	10:24	V203a SuMIRe-PFS[20]: プロジェクト概要と装置開発進捗状況まとめ 2020 年秋季 田村直之(東京大学 Kavli IPMU)
14:06	V125a Large Submillimeter Telescope (LST): 5 河野孝太郎(東京大学)	10:36	V204a 木曾広視野 CMOSカメラ Tomo-e Gozen による広域動画サーベイ 酒向重行(東京大学)
14:18	V126a CMB偏光観測衛星LiteBIRD計画の進展 羽澄昌史(高エネルギー加速器研究機構)	10:48	V205a TAO 6.5 m 望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU: 二視野合成機構 Field Stacker を用いたフラット作成とその効能 道藤翼(東京大学)
14:30	V127a Measurements of millimeter wave optical constants of black body materials for the CMB experiments 服部誠(東北大学)	11:00	V206a TMT 計画 - 進捗報告 臼田知史(国立天文台)
14:42	V128a Microwave Kinetic Inductance Detector の較正手法の開発 沓間弘樹(東北大学/理化学研究所)	11:12	V207a せいめい望遠鏡用 可視光 3 色同時撮像 CMOS カメラ TriCCS の開発 松林和也(京都大学)
14:54	V129a POLARBEAR-2/Simons Array 実験 - 観測機器コミッショニング状況 長谷川雅也(高エネルギー加速器研究機構)	11:24	V208a 1.8m軸外し望遠鏡PLANETSの開発状況 鍵谷将人(東北大学)
15:06	V130a POLARBEAR-2a における較正光源を利用した検出器の監視と評価 金子大輔(東京大学)	11:36	V209a EMCCD によるスペックル撮像データからの物体像最尤推定 鹿田諒太(北見工業大学)
		11:48	V210a Development of micro-mirror slicer integral field spectroscopy for high-resolution solar observations 末松芳法(国立天文台)

V3. 観測機器 (X線・ γ 線)

9月10日(木) 午後・A会場		9月8日(火) 午前・D会場	
13:30	V211a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA における迷光雑音の対策 II 阿久津智忠(国立天文台)	10:00	V301a 微小ピクセル CMOS センサによる X 線 検出データ処理システムの開発 佐久間翔太郎(大阪大学)
13:42	V212a むりかぶし望遠鏡 / MITSuME を用いた Starlink DarkSat の等級の評価 堀内貴史(国立天文台)	10:12	V302a 多重化コード化マスクの導入による MIXIM の有効面積拡大 石倉彩美(大阪大学)
13:54	V213a SPICA(次世代赤外線天文衛星): 日欧 共同推進による概念検討・設計の進捗 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)	10:24	V303a CMOS イメージセンサを用いた硬 X 線撮 像偏光計の開発 III 畠内康輔(東京大学)
14:06	V214a SPICA 搭載中間赤外線観測装置: ESA 審査に基づく概念検討・設計の進捗 大藪進喜(徳島大学)	10:36	V304a 湾曲 Si 結晶を用いたブラッグ反射型偏 光計の分光性能評価 井上諒大(中央大学)
14:18	V215a 次世代赤外線天文衛星 SPICA: 極低温 冷却システムの熱構造の詳細検討 鈴木仁研(宇宙航空研究開発機構)	10:48	V305a 硬X線偏光観測実験 XL-Calibur 気球の 2022 年フライトへ向けた準備状況 高橋弘充(広島大学)
14:30	V216a 小型 JASMINE 計画の全体的概況 郷田直輝(国立天文台)	11:00	V306a シミュレーションを用いた IXPE 衛星によ る広がった天体の軟 X 線偏光解析手法 の研究 山本龍哉(広島大学)
14:42	V217a 星の高精度位置測定を行う JASMINE に おける実証実験 矢野太平(国立天文台)	11:12	V307a X 線偏光観測衛星 IXPE 搭載 X 線望遠 鏡用受動型熱制御素子サーマルシール ドの開発(7) 山口友洋(名古屋大学)
14:54	V218a 小型 JASMINE 衛星の要素技術検証 VI 上田暁俊(国立天文台)	11:24	V308a 超薄膜グラフェンを用いた飛翔体搭載用 軟 X 線光学素子の開発(3) 三石郁之(名古屋大学)
15:06	V219a 小型 JASMINE の解析ソフトウェアの詳 細化 山田良透(京都大学)	11:36	V309a X 線天文衛星 Athena 計画の現状 松本浩典(大阪大学)
15:18	V220a 高コントラスト観測システムテストベッド EXIST の開発 米田謙太(北海道大学)	11:48	V310a Athena 衛星に搭載する SPO 望遠鏡の DLC コーティング 芳野史弥(中央大学)
15:30	V221a PIXY2 を用いたスペースデブリ自動検出 システムの開発 畠山拓也(宇宙航空研究開発機構)		

9月8日(火) 午後・D会場		9月9日(水) 午前・D会場	
13:30	V311a 超小型 X 線衛星 NinjaSat に搭載のガス X 線検出器の開発 武田朋志(東京理科大学/理化学研究所)	10:00	V321a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 42:Double-SOI 構造を導入した X 線 SOI ピクセル検出器の X 線に対する放射線耐性の評価 北島正隼(東京理科大学)
13:42	V312a 超小型 X 線衛星 NinjaSat に搭載の高電圧印加・アナログ信号処理ボードの開発 吉田勇登(東京理科大学/理化学研究所)	10:12	V322a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 43:新規構造を導入した X 線 SOI ピクセル検出器の放射線耐性の評価(2) 林田光揮(東京理科大学)
13:54	V313a 超小型 X 線衛星 Ninjasat に搭載の X 線背景放射減衰シールドの最適化 佐藤宏樹(理化学研究所/芝浦工業大学)	10:24	V323a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 44:PDD 構造に改良を加えた X 線 SOI ピクセル検出器の性能評価 行元雅貴(宮崎大学)
14:06	V314a 超小型衛星 SONGS 搭載太陽中性子・ガンマ線検出器の積層プラスチックシンチレータ部の性能評価 宇佐見雅己(名古屋大学)	10:36	V324a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 45:X 線 SOI ピクセル検出器の軟 X 線性能 児玉涼太(京都大学)
14:18	V315a 突発天体位置決定に向けた超小型衛星 CAMELOT の開発現状 眞武寛人(広島大学)	10:48	V325a HiZ-GUNDAM に向けた次世代広視野 X 線検出器のイメージデータ処理 荻野直樹(金沢大学)
14:30	V316a 地球磁気圏 X 線撮像計画 GEO-X (GEOspace X-ray imager) の現状 III 江副祐一郎(東京都立大学)	11:00	V326a GRAMS 計画 1: MeV ガンマ線観測・ダークマター探索気球実験 小高裕和(東京大学)
14:42	V317a 速報実証衛星 ARICA のプロジェクト進捗状況 渡辺智也(青山学院大学)	11:12	V327a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画:全体報告(18) 齋藤隆之(東京大学)
14:54	V318a ダークバリオン探査ミッション Super DIOS の開発に向けた検討 VI 佐藤浩介(埼玉大学)	11:24	V328a CTA 大口径望遠鏡に用いる光電子増倍管の性能評価および 2-4 号機カメラ製作の現状 佐々木寅旭(埼玉大学)
15:06	V319a 電鍍技術を用いた飛翔体搭載用高角度分解能多重薄板型 X 線望遠鏡の開発(3) 瀧川歩(名古屋大学)	11:36	V329a Schwarzschild-Couder 型の CTA 小・中口径望遠鏡の開発状況 奥村暁(名古屋大学)
15:18	V320a 超伝道転移端 X 線検出器の技術成熟化と地球外試料分析に向けた SPring-8 実験 須田博貴(東京都立大学)	11:48	V330a 新型大気蛍光望遠鏡による極高エネルギー宇宙線の観測状況及び波形収集回路の開発 寺内健太(京都大学)

W. コンパクト天体

9月9日(水) 午後・D会場		9月9日(水) 午前・C会場	
13:30	V331a X線分光撮像衛星(XRISM)搭載軟X線撮像装置(Xtend)の開発の現状(4) 内田裕之(京都大学)	10:00	W01a 相対論的衝撃波におけるシンクロトロンメーザー放射に伴う粒子加速 岩本昌倫(九州大学)
13:42	V332a X線分光撮像衛星XRISM搭載X線望遠鏡(XMA)開発の現状(4) 林多佳由(NASA's GSFC, UMBC)	10:12	W02a 非一様磁化プラズマ中を伝播する相対論的無衝突衝撃波のParticle-in-Cell simulation 富田沙羅(東北大学)
13:54	V333a XRISM搭載Xtendの応答関数の調査(2) 花岡真帆(大阪大学)	10:24	W03a 広帯域GRB残光での偏光の理論予測: 磁場構造の観測的制限について 霜田治朗(名古屋大学)
14:06	V334a XRISM搭載Xtendのフライト用CCDの電荷転送非効率の調査 金丸善朗(宮崎大学)	10:36	W04a GRB170817Aの非自明なジェット構造 高橋和也(京都大学)
14:18	V335a X線分光撮像衛星XRISM搭載CCD検出器のためのパイルアップの分析と補正アルゴリズムの開発(2) 丹波翼(東京大学)	10:48	W05a GeV/TeV帯域で検出されたガンマ線バーストの初期X線残光における緩慢減衰期の統計的性質 佐藤優理(青山学院大学)
		11:00	W06a GRB 050820A: ガンマ線バーストの即時放射休止中の放射の起源 李晋(青山学院大学)
		11:12	W07a MAXIによる11年間のガンマ線バーストの観測 西田宏幹(青山学院大学)
		11:24	W08a MAXI/GSCが検出した2020年度前半の突発現象: X線連星系の短期長期活動と増光する矮新星SS Cygの検出 根来均(日本大学)
		11:36	W09a X線観測によるU Gemの矮新星爆発時および静穏時におけるプラズマ空間分布の解明 武尾舞(東京都立大学)
		11:48	W10a 矮新星KIC 9406652における、公転軌道面から傾いた降着円盤の性質の調査 木邑真理子(理化学研究所)

9月9日(水) 午後・C会場		9月10日(木) 午前・C会場	
13:30	W11a 爆発的質量放出により駆動される突発天体モデル：特異な突発天体 AT2018cow への適用 宇野孔起(京都大学)	10:00	W21a Be/X 線連星系において1周期の間に大きく方向を変える降着流 岡崎敦男(北海学園大学)
13:42	W12a 電子捕獲型超新星におけるニュートリノ集団振動の観測への影響 佐々木宏和(国立天文台)	10:12	W22a 超臨界中性子星降着流の降着率依存性および磁場強度依存性の研究 井上壮大(筑波大学)
13:54	W13a 超強磁場中性子星「マグネター」のバーストの時間的な性質(3) 中川友進(海洋研究開発機構)	10:24	W23a 中性子星の磁場進化へのクラスト(殻)の可塑性変形の効果 小島康史(広島大学)
14:06	W14a Luminosity functions of repeating and non-repeating fast radio bursts 橋本哲也(国立清華大学)	10:36	W24a X線単独中性子星における高温成分と吸収構造の性質 米山友景(大阪大学)
14:18	W15a ALMAによる静穏期のガンマ線連星 PSR B1259-63/LS 2883 の観測 藤田裕(東京都立大学)	10:48	W25a 中性子星中で出現する多様な超状態と中性子星の熱的進化 野田常雄(久留米工業大学)
14:30	W16a ガンマ線連星 LS 5039 の9秒パルスの検証とマグネター仮説 牧島一夫(東京大学)	11:00	W26a コンパクト連星合体直前の電磁場の解析解と合体前電磁波対応天体 和田知己(京都大学)
14:42	W17a ガンマ線連星 LS 5039の、NuSTAR 衛星と Fermi 衛星を用いた広帯域スペクトル解析 米田浩基(理化学研究所)	11:12	W27a キロバのスペクトルで探る r-process 元素合成の痕跡 土本菜々恵(東北大学)
14:54	W18a 周期的高速電波バーストの連星コムモデル 井岡邦仁(京都大学)	11:24	W28a 連星中性子星合体における質量放出と 藤林翔(Max Planck Institute for Gravitational Physics)
15:06	W19a パルサーの距離情報より求めた天の川銀河内電離ガス密度分布 亀谷收(国立天文台)	11:36	W29a Jet propagation and Cocoon Emission in Neutron Star Mergers and GW170817 Hamid Hamidani (Kyoto University)
15:18	W20a 中性子星表面の定常的な磁気山の構造 藤澤幸太郎(東京大学)	11:48	W30a NICER のデータを用いた X線新星 MAXI J1810-222 のエネルギースペクトルとパワースペクトル解析 高城龍平(日本大学)

X. 銀河形成

9月10日(木) 午後・C会場		9月8日(火) 午前・E会場	
13:30	W31a GX 339-4 の X 線と可視光光度曲線のタイムラグ解析：可視光が先行する順相関成分 大間々知輝(広島大学)	10:00	X01a 原始銀河団中ガスの Ly α 放射と金属組成比分布 福島啓太(大阪大学)
13:42	W32a 超臨界降着流におけるコロナモデルとその放射スペクトルの特徴 川中宣太(京都大学)	10:12	X02a AGN Feedback Model in GADGET3-Osaka: Cosmological Simulation Abednego Wiliardy (Osaka University)
13:54	W33a ブラックホール降着流の一般相対論的輻射磁気流体計算：質量降着率依存性 朝比奈雄太(筑波大学)	10:24	X03a 高分解能シミュレーションに基づいた超新星フィードバックモデルの構築 奥裕理(大阪大学)
14:06	W34a Super-Eddington 天体に対する dusty-gas の Hoyle-Lyttleton 降着過程 尾形絵梨花(筑波大学)	10:36	X04a Synthetic Metal Observations of z=2.0 IGM within Osaka Feedback Model Simulations Jackson M. Norris (Osaka University)
14:18	W35a 始原星団内の中間質量ブラックホールの星の潮汐破壊現象による成長 櫻井祐也(IPMU/Georgia Institute of Technology)	10:48	X05a The Uchuu simulations: Data release 1 石山智明(千葉大学)
14:30	W36a 70M \odot のブラックホールを持つとされる連星系 LB-1 の形成過程について 谷川衝(東京大学)	11:00	X06a ダークマターの自己相互作用を考慮した宇宙の構造形成シミュレーション 蛭子俊大(千葉大学)
14:42	W37a 濃い星周物質内でのブラックホール形成と突発天体 津名大地(東京大学)	11:12	X07a 銀河衝突によるダークマター欠乏銀河の形成：衝突速度依存性について 大滝恒輝(筑波大学)
14:54	W38a 散開星団で形成される連星ブラックホールのスピン 熊本淳(東京大学)	11:24	X08a 宇宙論的シミュレーションを用いた CO 分子輝線疑似観測 井上茂樹(筑波大学/国立天文台)
15:06	W39a Formation and evolution of compact object binaries in AGN disks 田川寛通(東北大学)	11:36	X09a Resolved Kennicutt - Schmidt Law as Seen from COMING 竹内努(名古屋大学)
15:18	W40a On the spin distribution of merging binary black holes from star clusters Alessandro A. Trani (The University of Tokyo)	11:48	X10a Analysis of the SFR-M relation for CANDELS GOODS-S data 施文(名古屋大学)
15:30	W41a 超巨大 Kerr バイナリー・ブラックホールからの重力波について 大家寛(東北大学)		

9月8日(火) 午後・E会場		9月9日(水) 午前・E会場			
13:30	X11a	Understanding Galaxy Evolution through Machine Learning Suchetha Cooray (Nagoya University)	10:00	X22a	CFHT Megaprime u -band Source Catalog of the <i>AKARI</i> North Ecliptic Pole Field Ting-Chi Huang (SOKENDAI / JAXA)
13:42	X12a	機械学習を用いた銀河の可視光スペクトルの星種族分解 村田一心(法政大学)	10:12	X23a	A constraint of [NII] 122 μ m and a new dust continuum detection of a $z = 7.15$ Lyman Break Galaxy with ALMA 菅原悠馬(早稲田大学)
13:54	X13a	GANを用いた輝線強度マップのシグナル分離 森脇可奈(東京大学)	10:24	X24a	Truth or Delusion? A Possible Gravitational Lensing Interpretation of the Ultraluminous Quasar SDSS J0100+2802 at $z = 6.30$ 藤本征史(Cosmic Dawn Center, Niels Bohr Institute)
14:06	X14a	The Mean Absorption Line Spectra of a Selection of Luminous $z \sim 6$ Lyman Break Galaxies 播金優一(東京大学)	10:36	X25a	Serendipitous Discovery of an optically dark AGN host galaxy at $z = 3.4$ 早津夏己(国立天文台)
14:18	X15a	LACES: 若い小質量星形成銀河からの電離光子脱出探査 中島王彦(国立天文台)	10:48	X26a	Physical Characterization of Serendipitously Uncovered mm-wave Line Emitting Galaxies behind the Local LIRG VV114 水越翔一郎(東京大学)
14:30	X16a	輝線強度マッピングで探る $z \sim 2-7$ 星形成銀河周りの巨大 $Ly\alpha$ 構造 菊地原正太郎(東京大学)	11:00	X27a	Molecular gas distribution in a main sequence galaxy with a UV clump at $z = 1.45$ 牛尾海登(京都大学)
14:42	X17a	$Ly\alpha$ haloes around UV-selected galaxies at $z=2.9-4.4$ Haruka Kusakabe(University of Geneva)	11:12	X28a	SOFIA View of an Extremely Luminous Infrared Galaxy: WISE 1013+6112 鳥羽儀樹(京都大学)
14:54	X18a	$Ly\alpha$ halos around LAEs at $z = 2.84$ across environments 菊田智史(筑波大学)	11:24	X29a	近傍 LIRG の近赤外線複数輝線から探る銀河相互作用の影響 楡引洸佑(東京大学)
15:06	X19a	すばるで探る近傍極金属欠乏銀河の統計的分光調査 磯部優樹(東京大学)	11:36	X30a	Investigation of Galaxies with a Kinematically Distinct Core Using MaNGA Data Kiyooki Christopher Omori (Nagoya University)
15:18	X20a	HSC 広視野撮像観測による $z \sim 4$ における原始銀河団銀河の光度関数 伊藤慧(総合研究大学院大学/国立天文台)	11:48	X31a	Millisecond Pulsars Modify the Radio-SFR Correlation in Quiescent Galaxies 須藤貴弘(東京大学)
15:30	X21a	すばる超広視野観測で解明する銀河形成最盛期以降の大規模構造形成と銀河進化 山本直明(東北大学)			

Y. 天文教育・広報普及・その他

9月8日(火)午後・A会場	
13:30	Y01a 小学校理科 組み立て式天体望遠鏡キットを用いた自宅での月観察学習の試み 縣秀彦(国立天文台)
13:42	Y02a 各国理科教科書・シラバスにおける天文学記述のアーカイブの重要性 玉澤春史(京都市立芸術大学/京都大学)
13:54	Y03a 天文学のサポーターに対するアンケート調査報告 生田ちさと(宇宙航空研究開発機構)
14:06	Y04a すばる望遠鏡 HSC データを用いた小惑星検出アプリ COIAS の開発 浦川聖太郎(日本スペースガード協会)
14:18	Y05a キトラ古墳・天文図のダジック・アースによる球体投影 土井正治(アクトパル宇治)
14:30	Y06a 緯度観測所の集合写真に記録された袴姿の女性所員たち 馬場幸栄(一橋大学)
14:42	Y07a IAU 教育のための天文学推進室(OAE)日本窓口(NAEC)チームの立ち上げ 富田晃彦(和歌山大学)
14:54	Y08a 国立天文台「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE の進捗状況 臼田 - 佐藤功美子(国立天文台)